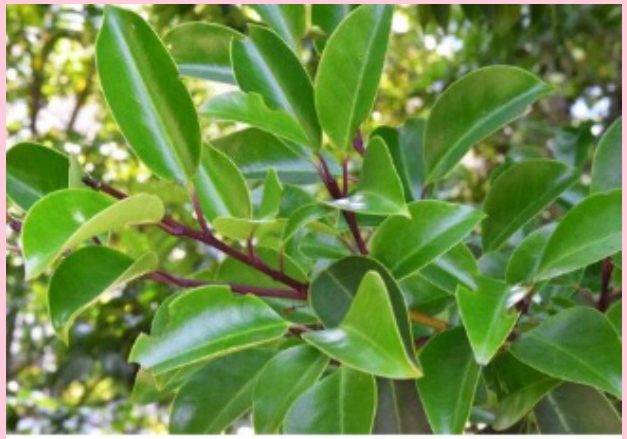
9 クロガネモチ

モチノキ科

名前のゆらい
じゅひから鳥もちがとれ、
えだが黒っぽいむらさきいろ
(黒鉄色)だから。

秋にはみがつき、冬になると真っ赤になる。

赤くじゅくしたみは、ヒヨドリ、ツグミ、キジバトなど鳥がこのんでたべる。



クロガネモチ

和名	黒鉄もち	9
別名	フクラシバ、フクラモチ	

分類				
	科（APG分類）	モチノキ科	属	モチノキ属
	科（旧分類）		属	
	科（旧分類）		属	

名前の由来

・樹皮から鳥もちが取れたり、葉柄や枝が黒っぽい紫色（＝黒鉄色）を帯びることからクロガネモチの名が付いた。
・同上、葉が乾くと黒鉄色になることから

樹木の特徴

・日本中部以西～中国、四国、九州、琉球列島に分布し、暖地から亜熱帯のヤヤ気温の高い地域の山野に生え、低地の森林に多く、時には海岸にも顔を出す。
・成長の速さは遅く、株は1本立ち、ふっくらした樹形となる。春4月頃新芽を吹き、葉が入れ替わる。
・葉は互生、深緑色の革質で表面に光沢あり、裏面は淡緑色。葉身は長さ5~6cmの楕円形で葉先は尖り、全縁。
・雌雄異株で花期は5～6月、当年枝の葉腋から花序を作って淡紫色～白色の小さな4～6弁花を咲かせる。
・果実は液果、径5~6mmほどの球形をしており、秋には多くの実が集まってつく。雌株だけ果実が付き、11月～2月までに真っ赤に熟して春まで枝に残る。

用途・その他

・『金持ち』に通じるので縁起木として多くの家の庭木に植えられている。また、冬季に赤い実をつける庭木としては最大級のもので、花の少ない冬を彩る存在になっている。
・赤熟した実は、ヒヨドリ、ツグミ、シロハラ、キジバトなどが好んで食べ、鳥の糞から庭に勝手に生えることもある。

作成年月日　2021，08，16